

# 小林恭子の ロンドン発 グローバル随想

第36回

## 女性が心から 大切にしたいものとは



イラスト・題字：長峯亜里

### 小劇場で楽しむ映画

映画館に出かけなくても、テレビで気軽に、しかも好きな時に映画を鑑賞できるようになった。その昔、映画評論家の故・淀川長治さんが解説役となった「日曜洋画劇場」(テレビ朝日)を筆者は心待ちにしていたものだが、今やこの番組も淀川さんも、そして最後の「サヨナラ、サヨナラ、サヨナラ」も知らない人の方が多いだろう。

それでも、映画館に行くことはいまだに娯楽の一つであり、高齢者世帯となった筆者と家人にとっても、ちょっとした旅のような楽しいイベントだ。チェーン系の映画館はアクションものや子ども向けの作品が中心になりがちなので、足を運ぶのはロンドン各地でアート系映画を上映する独立系映画館「Curzon Cinemas (カーゾン・シネマ)」である。

「アート系」と言っても小難しい作品ではなく、大人が見て、一定の満足感が得られる映画である。自宅から少し電車に乗って、テニスの試合で有名なウィンブルドンで降り、駅から歩いて数分のカーゾン・シネマに行くことが多い。ロンドンでは60歳以上は市内のバスと電車の運賃が無料になり、カーゾンの会員になるとチケットが割安になるので、これを使って得をし

た気分で映画館の座席に座る。

### 第二次大戦直後のイタリア

昨年は、ここで英リドリー・スコット監督の『ナポレオン』や役所広司が主演する『パーフェクト・デイズ』などを見たが、3月に日本で公開予定のイタリア映画『まだ明日がある (C'è ancora domani)』を皆さんにお勧めしたい。昨年5月、イタリア映画祭の一環として上映された時はこの題名だったが、今回は邦題『ドマーニ！愛のことづて』で公開される。



映画『ドマーニ！愛のことづて』の場面

3月14日からBunkamuraル・シネマ 渋谷宮下ほか全国順次公開(配給:スモモ)  
©2023 WILDSIDE S.r.l - VISION DISTRIBUTION S.p.A

映画はコメディアンで俳優でもあるパオラ・コルテッレージが初監督・主演し、本国イタリアで600万人を動員したという。公開された2023年のイタリア国内興行収入ランキング1位を記録した。英国に住む筆者はコルテッレージのこと